

在宅要介護高齢者の生活と健康に関連する要因の検討

051

～通所サービス利用における社会的交流に着目して～

○若林 ^{わかばやし} 聖子、宮城 ^{みやぎ} 重二(女子栄養大学保健管理学的研究室)

【背景】 高齢化や核家族化の進行等により、要介護者を社会全体で支える仕組みとして2000年より介護保険制度が導入され、通所サービスについては在宅生活の継続を支える地域資源としての社会的役割が期待されている。通所サービスにおいては機能訓練等に加えて社会的交流が利用者の健康維持に寄与していると考えられる。しかし、要介護高齢者の社会的交流に着目した研究は十分に行われていないのが現状である。

【目的】 通所サービス(デイケア)利用者の施設・地域における社会的交流及び機能訓練の現状について、性・年齢、要介護度別に検討を試みた。

【方法】 A 施設通所サービスを利用している要支援・要介護高齢者110名を対象とし、面接聞き取り調査を実地した。調査項目は社会的交流等の生活状況(外出・家族以外との会話・地域活動への参加の有無)および通所サービス利用状況(利用目的)である。また、性・年齢、要介護度などの基本属性については施設サービス利用記録を利用した。調査期間はH22年6月～H23年1月である。

【結果】 性別では、外出・家族以外との会話のある者、また通所サービスにおける交流を利用目的とする者は、女性の方が男性より有意に多かった。年齢別では、通所サービスの利用目的として機能訓練をあげる者の割合は後期高齢者より前期高齢者において有意に多かった。要介護度別では、要介護より要支援において、また要介護では要介護3・4より要介護1・2において、外出・家族以外との会話・地域活動への参加のある者、通所サービスの利用目的として交流をあげる者の割合が多い傾向が見られた。しかも、外出のある者の

割合では有意差があった。

一方、施設におけるサービス利用目的として機能訓練をあげる者の割合は、要支援より要介護において高く有意差が見られた。同割合は要介護1・2と要介護3・4ではいずれも80%台と高く、要介護度による差はほとんどなかった。

【考察】 在宅要介護高齢者の生活状況、特に地域における社会的交流の有無や、施設における社会的交流および機能訓練をサービス利用目的とするか否かは性・年齢・介護度によって異なった。男性においては地域・施設における社会的交流を促進することが求められる。年齢別には前期高齢者ではほとんどの者が機能訓練をサービス利用の目的としていたことから、機能訓練が要介護度の改善及び社会的交流の促進に活かされることが期待される。また、後期高齢者においても前期高齢者より少ないとはいえ、機能訓練をサービス利用の目的とする者の割合が70%台と高いことから、機能訓練を意識したアプローチが求められる。

【結論】 在宅要介護高齢者の地域および通所サービス利用時における社会的交流及び機能訓練の現状は、性別、年齢、要介護度によって異なったが、通所サービスにおける社会的交流及び機能訓練が、要介護高齢者の生活機能及び身体機能の改善に寄与することが示唆される。今後はその点についての実証的なアプローチが必要だと思われる。

通所サービスの社会的役割に関心のある方の参加をお願いします。

(連絡先) 若林 聖子

女子栄養大学保健管理学的研究室
〒350-0228 埼玉県坂戸市千代田 3-9-21
TEL:0492-84-2861/FAX:0492-84-2861
E-mail:wsa091@eiyo.ac.jp

